

はるかぜ図書館だより



つくば国際大学東風高等学校 図書館 2018年6月発行 No.3

みなさん、こんにちは！6月も半ばになり、暑いなあと感じる日が増えてきましたね。

東風祭お疲れさまでした。1日目のステージ発表では部活動やクラスごとに個性があって、見ていても楽しかったです。大勢の前でステージに立つだけでも緊張するはずなのに、みんな堂々としていて、とてもすごいなあと感じましたし、元気をたくさんもらえました。2日目も呼び込みなど積極的にしている姿を多く見かけ、学校全体が活気にあふれていましたね！準備期間も含め、本当にお疲れさまでした。

さて、6月といえば憂鬱な梅雨の季節ですが、室内でゆっくり読書を楽しむのに良い時期でもあります。普段あまり本を読まないよという人も、この機会にぜひ本を読んでみましょう。東風高校の図書館には、授業で習うような少し難しい本から、映画やドラマの原作など比較的読みやすい本もたくさん揃っています。もし探している本があったら、気軽に図書館担当者まで問い合わせしてみてくださいね。

放課後は期末テストに向けて勉強している生徒もたくさんいます。資料集や問題集も各教科揃えていますので、自習の場所としてもどんどん活用してくださいね！



百人一首のハナシ

今回は、作者の迎えた運命が、その歌に込められた思いをより切実に、儚く切ないものへとさせた一首をご紹介します。

君がため 惜しからざりし 命さへ 長くもがなど 思ひけるかな

小倉百人一首・第50番 藤原義孝 (954~974年)



【現代語訳】あなたのためになら捨てても惜しくなかった命でさえ、あなたに逢えて想いが通じた今となっては、少しでも長く生きてまたお逢いしたいと思うようになりました。

「君」への一途で情熱的な想いが感じられる歌ですね。

作者の藤原義孝は仏教への信仰心がとても篤い人物で、容貌・人柄・学識、すべてにおいて優れていたそうです。この恋が実るのなら命を捨ててもいいとまで想っていた人と結ばれることができ、彼の恋心はより一層大きくなったのでしょう。愛する人と末永く一緒に生き続けたいという切実で真っすぐな想いが伝わってきます。

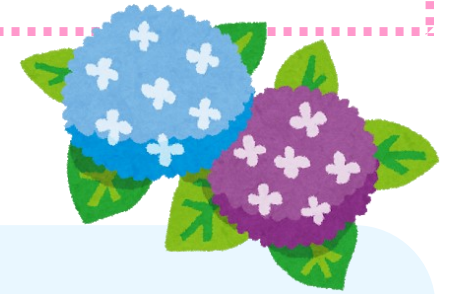
しかし藤原義孝はその願い叶わず、21歳の若さでこの世を去りました。なんとも哀しい話ですが、彼のその運命こそが、この歌を一段と魅力的にし、ドラマチックな一首にさせたのかもしれません。

★図書購入希望調査へのご協力ありがとうございました★

みなさんからいただいたリクエストを参考に、本の購入を行いたいと思います。貸出が行えるようになった際はご案内しますので、楽しみにしてください！

6月のオススメ

3冊全て
図書館に
あります



君の臍臓をたべたい 著：住野よる

【僕】が病院で拾った1冊の文庫本「共病文庫」。それはクラスメイトである山内桜良が綴っていた、秘密の日記帳だった。そこには、彼女の余命が臍臓の病気により、もう幾ばくもないと書かれていて…。

映画化もされ、タイトルのインパクトもとても強いのでほとんどの人が知っていると思います。

人と人の間に生まれた感情を「友情」や「愛情」といった言葉に当てはめることは簡単なことですが、そんなありふれた言葉で表すのが惜しいと思う程の憧れや愛しさを【僕】と咲良はお互いに抱きます。別れを意味する「死」をきっかけに出会ったふたりが、残された時間の中で「生きる」ことの尊さを共有していく…儚く、心揺さぶられるお話です。



甲子園だけが高校野球ではない 監修：岩崎夏海

日本全国で本当にあった泣ける青春物語21作。高校野球の雑誌記者や編集者が取材で集めた実話が満載。選手はもちろん、選手を支えるマネージャー、選手の家族、プラカードを持って行進する女の子など…高校野球に一生懸命、一途に関わる人たちの物語。

高校野球に関わるすべての人が目標にしているであろう甲子園。選手、マネージャー、球児を支える家族…立場が変わっても見つめる先は同じで、人の数だけドラマがあるのだと知りました。勝負の世界において「勝たなければ意味がない」というのは真実かもしれません。しかし、それ以上に「勝つことだけがすべてではない」のかなと思いました。野球や甲子園に興味がないという人にこそ読んで欲しい一冊です。

鳥類学者だからって、鳥が好きだと思ふなよ。 著：川上和人

耳に飛び込む巨大蛾、襲い来るウツボと闘い、吸血カラスを発見したのになぜか意気消沈。空飛ぶカタツムリに想いをはせ、増え続けるネズミ退治に悪戦苦闘する…。アウトドア理系「鳥類学者」の知られざる毎日は、今日も命がけ！！

「鳥が好きだと思ふなよ（嫌いとも言っていない）」という感じで、タイトルは照れ隠しとしか思えない程、作者の鳥への愛が伝わってきました。鳥類学者の知識を余すことなく使ってチョコボールのキャラクター・キョロちゃんを分析したり、とても笑えて、読めばきっと元気を貰える一冊です。

